



2017年10月15日発行（季刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2017年10月
第 112号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0063 横浜市中区花咲町1-46-1-1105 Tel 090-9003-7279
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩（49）（岡田健嗣）	1
点字から識字までの距離（105）（山内 薫）	6
東京漢点字例会報告とわたくしごと（木村多恵子）	11
漢文のページ	15
ご報告とご案内	17
編集後記（木下和久）	19

漢点字の散歩（四十九）

岡田 健嗣



カナ文字は仮名文字（一）

今回も「万葉集」をお借りして、わが国の文字表記について考えてみたいと思います。既に充分語り尽くされておりましたし、私も微力を省みず、これまで二度ほど試みたところを、再度試みてみたいと考えました。私どもの持つ常識とはやや違った様相が見えてくれば、この甲斐があったものといえることができます。

左は「万葉集」から数首の歌を選んでみたものです。

【雄略天皇】

籠もよ み籠持ち 掘串もよ み掘串持ち この
岡に 菜摘ます子 家告らせ 名告らさね そら
みつ 大和の国は おしなべて 我れこそ居れ
しきなべて 我れこそ居れ 我れこそば 告らめ
家をも名をも
こもよ みこもち ふくしもよ みぶくしもち
このをかになつますこ いへのらせ なのらさ
ね そらみつ やまとのくには おしなべて わ

二

【舒明天皇】

れこそをれ しきなべて われこそをれ われこ
そば のらめ いへをもなをも

大和には 群山あれど とりよるふ 天の香具山
登り立ち 国見をすれば 国原は けぶり立ち
立つ 海原は かまめ立ち立つ うまし国ぞ 蜻
蛉島 大和の国は
やまとはは むらやまあれど とりよるふ あめ
のかぐやま のぼりたち くにみをすれば くに
はらは けぶりたちたつ うなはらは かまめた
ちたつ うましくにぞ あきづしま やまとのく
には

【磐姫皇后（いはのひめのおほきさき）】

八五

君が行き 日長くなりぬ 山尋ね 迎へか行かむ
待ちにか待たむ

きみがゆき けながくなりぬ やまたづね むか
へかゆかむ まちにかまたむ

八六

かくばかり 恋ひつつあらずは 高山の 岩根し

まきて 死なましものを

かくばかり こひつつあらずは たかやまの い
はねしまきて しなましものを

八七

ありつつも 君をば待たむ うち靡く 我が黒髪
に 霜の置くまでに

ありつつも きみをばまたむ うちなびく わが
くろかみに しものおくまでに

八八

秋の田の 穂の上に霧らふ 朝霞 いつへの方に
我が恋やまむ

あきのたの ほのうへにきらふ あさがすみ い
つへのかたに あがこひやまむ

【聖徳太子】

四一五

家ならば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥やせる

この旅人あはれ

いへならば いもがてまかむ くさまくら たび
にこやせる このたびとあはれ

右の御歌は、巻あるいは部立ての冒頭に置かれてい

るものです。

まず最初の御歌は、「万葉集」開巻冒頭の、雄略天皇の御製歌とされる御歌です。雄略天皇は、五世紀後半に活躍した、允恭天皇の第五王子で、第二十一代の子天皇です。対立する皇位継承候補を一掃して即位したとあります。朝鮮半島の百濟を助けて高句麗と対抗するなど、大きな力を手中にした天皇です。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣に、「幼武」の文字がみられること、また「辛亥」の年と記銘の年号があることから、四七一年であることが分かります。

この御歌は、天皇が野を行くと、高い身分の家柄の姫たちが菜摘みをしているところに出会った。天皇はその中の一人の姫に名を問うて、自らも名乗った、というものです。当時の高位の社会では、若者が若い女性に名を問うということは、即ち求婚していることを意味すると解されます。つまりこの御歌は、妻問いの御歌なのです。そしてこのような御歌は、最も吉兆に富んだ御歌といえることができます。即ち歴史的に最も有力な天皇の、その言祝ぎにふさわしい御歌を冒頭に置いて、巻を始めたのがこの「万葉集」ということができるということなのです。

その次の御歌は、第二番目に置かれた御歌、舒明天

皇の御歌です。舒明天皇は第三十四代天皇で、敏達（びだつ）天皇の第一王子、押坂彦人大兄（おしさかのひこひとのおおえのみこ）の王子です。在位は六二九～六四一年で、後の天智天皇と天武天皇の父、また持統天皇の祖父です。つまりこの「万葉集」の時代を開いた天皇という位置づけになります。

この御歌は、天の香具山に登って国見をすれば、煙はたなびき鷗が飛び交う、何と豊かな国であろうか、この蜻蛉島である大和の国は、というものです。天皇は、聖山である天の香具山に登って、その頂から自らが治める国を望まれて、心から嘆じておられるという御歌です。万葉の時代を開いた天皇の御歌であるこの御歌が、開巻第二番目を飾っているのです。

その次の御歌、第八五～八八番の四首の御歌は、磐姫皇后（いはのひめのおほきさき）の御歌です。磐姫は、第十六代・仁徳天皇の皇后で、天皇が難波に出かけてなかなかお帰りにならないことを嘆いて詠まれた御歌と言われます。磐姫は『古事記』では、極めて嫉妬深い女性として描かれているようですが、「万葉集」のこの四首の御歌では、大変静かな女性の御歌と読めます。天皇はなかなかお帰りにならない、お迎え

に行こうかこのまま待ち続けようか、ただただこのまま待ち続けるとは、死ぬということか、もうこれ以上待っていると、黒く美しく靡く髪にも、霜が降りそうだ、秋野田に実る稲穂にかかる朝霞がなかなか消えないように、わたくしの憂い心もなかなか晴れない、というのでしょうか。

仁徳天皇は五世紀前半の天皇で、応神天皇の第四王子です。聖帝と呼ばれるほどに手厚い政治を領かれたと言われて、わが国の歴史は、この仁徳天皇から始まっていると言われています。

天皇は、磐姫とは別に、八田皇女（やたのひめみこ）という女性を後に迎えようとなりました。それによって磐姫の猛烈な怒りを呼んでしまったと、『古事記』にはあると言います。このことは、右の四首の御歌から読み取れることはできそうにありません。

最後の四一～五番の御歌は、聖徳太子の御歌です。太子は用明天皇の王子で、推古天皇の弟です。皇太子として、また摂政として、大きな手腕を発揮して、天皇を支えられました。冠位十二階の制定、憲法十七条の発布、遣隋使の派遣などの改革や施策は国内外に及んで、太子の功績として現在に伝えられています。有

名な憲法十七条の第一条は、「一に曰く、和なるを以て貴しとし、忤(さか)ふることなきを宗とせよ。」とあって、「和」の精神を基とした道徳が解かれています。現代でもこの文言は、「和」の精神をモットーとする日本の精神を象徴していると言われます。

この御歌は、旅の途上で行き倒れた旅人を悼んで詠まれたもので、家におれば妻が用意してくれたしとねで暖かく休むことができただろうに、旅の途次で力尽きて倒れてしまふとは、何と哀れなことかこの旅人は、というものです。太子の哀れみ深いお心が感じられる御歌です。太子のご存命の期間は五七四〜六二二年です。

この御四方の御歌を「万葉集」の番号順に並べてみました。この御四方の御歌を「万葉集」の番号順に並べてみました。これを、人物の年代順に並べますと、磐姫皇后(五世紀前半)・雄略天皇(五世紀後半)・聖德太子(推古・六〇〇年前後)・舒明天皇(七世紀前半)となります。そしてこれらの御歌の歌体を見ますと、第一・二番の御歌とその後の御歌とは、明らかに違いがあるように見えます。長歌と短歌の違いと言え、その通りなのかもしれませんが、第一・二番の御歌を「長歌」と呼ぶのには、少々躊躇いを感じます。ま

た第八五〜八八番と第四一五番の御歌は、明らかに短歌形式の御歌です。しかも第八五〜八八番の御歌は、一連のストーリーを持った、一群の連作の御歌であることは否めません。このことは第一・二番の御歌とは明らかに異なる様相の御歌であることを証しているように思われます。

「万葉集」の第一・二番の御歌の後、第三番以降の御歌、そのうちの宮廷歌と呼ばれる御歌は、長歌と、それに応える形の何首かの反歌(短歌)から成り立っているのが一般です。そしてそれらのリズムは、五・七の音律に則っていて、最後に七音を添えて終わります。そのリズムの狂いはありません。反歌(短歌)は、長歌の最後の部分、五・七・五・七・七を独立させた形で、長歌で提出された事柄に応えた、あるいは響かせた御歌が置かれています。

『萬葉集釋注』を著された伊藤博先生によりまずと、冒頭の第一番の御歌は、成婚を祝う、舞踊に合わせて謡われた古歌謡であろうと言われて、この御歌を、この時代以前の最も有力な天皇であった雄略天皇の御製歌として、集の冒頭に置くことで、集全体を祝福しているのであろうと言われます。つまりこの御歌は、長歌の五・七音のリズムの成立に先立つ、集団で

唱える、あるいは二手に分かれて掛け合いをしながら舞踊に合わせ、唱和されたりするもので、文字表記によつて創作された後の宮廷歌とは一線を画するものと考えられると言われます。

また第八五〇番の御歌は、一首一首独立した御歌としても、また連作として一つの世界を提示する歌群としても、集団で唱えられる歌謡の時代の歌に比べて、遙かに複雑なものと言われます。万葉の初期の時代から二五〇年を遡つた磐姫の時代に作られた御歌ではなく、万葉の時代に仮託された御歌と考えるのが順当であろうと言われます。その作者として最も有力なのが、柿本人麻呂だとも言われます。

同じように第四一五番の聖徳太子の御歌も、集では、太子の慈しみ深いお心から生まれた御歌とされていますが、太子は舒明天皇と皇位を争つた山背大兄王（やましるのおおえのおう）の父ですので、舒明天皇より一世代年長の人だと言うことができます。やはりこの御歌も、太子に仮託して、後人の歌人によつて作られた御歌だと言わざるを得ないと言われます。

このように見て参りますと、第二番の舒明天皇の国見の御歌以外は、明らかに仮託歌であろうことが認められますし、第二番の舒明天皇の御製とされる御歌

も、同時代に作られた御歌であることが疑われなくとも、聖山の頂から行われる「国見」を詠うという、極めて公的な御歌であることは否めないことを考えれば、その時代を象徴した御歌でなければならぬことが分かります。つまり如何にもこの御歌は、天皇ご自身の作になる御歌でなければならぬ御歌である位置づけがなされていると考えられます。

こうしてみますと、この御四方の作とされる御歌を、その作られた年代の順に並べてみますと、雄略天皇御製歌（古歌謡）・舒明天皇御製歌（国見歌）・磐姫並びに聖徳太子の御歌となります。つまり冒頭の雄略天皇の御歌を除けば、「万葉集」に収められている御歌は、全て舒明天皇の御歌である「国見歌」よりも後に作られた御歌であるということが分かります。

そして「万葉集」は、冒頭第一・二番の後、第三番の御歌から後の御歌の間に、際だった相違が見られます。それが先にも述べた、長歌と短歌形式という韻律の成立に見られる、それに則つた言語（文字）表現の自由度の広がりだといふことができるように思われます。

（以下次号）

点字から識字までの距離（一〇五）

野馬追文庫（南相馬への支援）（二三三）

〇さんからの手紙

山内 薫

この活動の初めから野馬追文庫の誕生、そして南相馬への訪問など当初から私たちの活動を現地で支えて下さっていた保健師の〇さんから原稿を頂きました。

あの東日本大震災から六年六か月が経過しました。

その震災後、仮設住宅に多くの人が入居した二〇一年八月、仮設住宅の集会所一八か所に絵本をお送りいただいたのが始まりでした。一八か所から始まり三六の集会所にまで広がり「毎月一日に南相馬の子どもたちに本を送りたい」というやさしく熱い思いをいただき続けておりました。

一度にたくさんではなく「忘れない」息の長い支援をしたいとおっしゃっていたとき、仮設住宅が集約されつつある今は「ぼにたんさん（ぼにたん広場）から、何かリクエストありますか？」と訊いていただき

遠慮もせずリクエストをして、大型絵本をお送りいただいたりもしました。ぼにたん広場とは、震災後に地域のお母さんたちに寄り添えるおせっかいおばちゃんとして、母子健康推進員養成講座を開始し、そこから自主組織化して誕生した「ニコニコ笑顔でよりそい隊 .. 母子愛育会」の皆さんが開催している遊びの教室です。そこでの読み聞かせにお送りいただいた絵本たちは大活躍してくれています。

復興に向かう私たちは、少しずつ元氣を取り戻しています。

「子どもの本の持つ人の関係を作っていく力や心のどこかに読んだ本の絵や言葉が子どもたちの人生の中で、ふと力になったり励ましになったり：：：お母さんと子どもが、お父さんと子が、お友達同士が本を挟んで、ちよつと良いひと時を持つてほしい。本があつたことが、何か人生の中で楽しい思い出になってほしい。そんなことを、願っております。」と、攪上さんからお送りいただいた思いを大切にしていきたいと思つていきます。

野馬追文庫は多くの方のご支援で続いていると思ひ

ます。届いた絵本たちの後ろに、多くのやさしい顔が思い浮かびます。この長い支援に本当に感謝しております。そして寄稿させていただく機会をあたえてくださった山内さん、ありがとうございます。

〇さんは震災二年目の二〇一三年八月三日に攪上さんが所属する「お茶の水女子大学児童学科・発達臨床学講座・発達臨床心理学講座同窓会（略称ジネット）」の招きで東京に来られ、ジネット主催の第九回おしゃべりサロンという会で講演をなさっている。その時の記録が同会が発行している「ジネットだより第六七号」に掲載されているのでここに再録させていただきます。震災からまだ二年という時期のお話しは、再度私たちの活動の原点を思い起こさせるものだ。なおジネットは、本の発送を初めとして、資金面でも野馬追文庫の活動を現在まで支援して下さっている。

南相馬からのレポート

東日本大震災の際、南相馬市は震度六弱の揺れに見

舞われました。その時、原町保健センターでは十カ月の赤ちゃん健診をしていました。

地面が割れるのではないかと思う程の揺れの中で来所者の安全確保に懸命でした。そして三〇分から一時間後、沿岸部には一五mを超える津波が押し寄せました。私達は保健センターを避難所にするための準備をしていましたが、そんな津波が来ていることはまったく知りませんでした。

原町区の老健施設では三〇数名が亡くなられていますが、避難にあたった職員の方は、その後人前に出られなくなるほどのショックを受けていました。南相馬市の人的被害は、二五年四月現在で死亡者一〇四五人（うち関連死四〇九人）です。三月一二日に福島第一原発で爆発があり、放射性物質が拡散したかもしれないということは、新聞も届かなかったため一三日になっても知りませんでした。一〇〇人近くの方が原町保健センターに避難されていたので、ひたすらそこの仕事に追われていました。一五日頃から各小中学校の校庭に大型バスが何十台も来て多くの人が市外に避難していきました。一九日に保健センター避難者のバスを

見送った後は放心状態でした。通りには人影もなくなりましたが、実際には在宅で動けなかった人や、県外に避難したくないと避難所に残った人など、一万人弱の方が市内にいらつしやいました。保健師の中でも小さいお子さんがいる人達には避難を優先してもらい、三月末によく保健師が七、八人集まって、残っている人達のケアについて話し合いました。まずは避難している人達の健康状態の確認のため市内避難所の巡回、そして在宅巡回訪問が課題でした。

私達が保健師活動で一番に行ったのは「連携と調整」です。四月に入り、ようやく長崎から支援チームが来てくれることになりました。在宅巡回診療の目途がたち、そのための名簿を夜中までかかって準備しました。毎朝ミーティングをして、自衛隊の車で四チームに分かれて巡回しました。いろいろな支援の方々が来てくれましたが、長崎大学チームは、人が入れ替わる時は自分達で引き継ぎをしてきてくれたのでとても助かりました。また、副院長先生に何度も「いいんだよ、それで」と言っていたのが大変ありがたかったです。長崎大学は口腔外科にも大変強いので、当

市の歯科衛生士達と被災者の口腔ケアをしていただけ、肺炎になる人がほとんど出ませんでした。四月半ばから精神保健福祉士の方達が、六月には心のケアの人達が来てくれました。災害対策本部の人達は不眠不休で壊れそうだったので、職員のメンタルヘルスケアもお願いました。

仮設住宅への入居は当初の予定では二年といわれていましたが、復興住宅がまだ全然足りず、四年に延長されました。今も四千人以上の方が仮設住宅に入っており、さらに新たに建設しています。津波で家を流されたり、警戒区域に指定されて市外へ避難していた人達が戻ってきて仮設に入居するケースも増えていきます。

南相馬市は原発から二〇km圏内の警戒区域、三〇km圏内の緊急時避難準備区域および計画的避難区域、さらに圏外(大丈夫といわれている区域)と線引きがされ、当初は三〇km圏内までしか賠償金などの補償がなかったのです。圏外の住民からは「同じ市内で、自分達も大変な思いをしたのに」との声が上がるなど、確執が生まれたりもしました。

保健師活動で困ったり、悩んだりしたのは、まず対策本部の考えが伝わってこないこと、放射能についての知識がないこと、震災・津波・原発など被災状況が異なる避難者への対応、そして何より先が見えないことでした。それでも頑張れたのは、三区の保健師を一元化し、役割を明確化して活動できたこと、コーディネートする人の存在、そして多くの支援者の応援があったからでした。

緊急時避難準備区域には、危険だからと五月頃まで公の支援が入ってきませんでした。私達はずっとそこで生活していたのに、まるで感染区域かのように「物資をそこまで配送できないから隣町まで取りに來い」と言われて市の職員が取りに行くなど情けない思いもしました。ただ、全国から有志の保健師の方達が来てくれて、一緒に巡回などをやってくれました。警戒区域の学校は圏外の学校の体育館を借り、パーテーションで区切って授業を再開しました。四月下旬のことです。子ども達はバスに乗って通いました。この頃の子どもの市内居住率は二割弱でした。

原町保健センターでも半年後によく「なかよし

広場」という小さいお子さん達の遊び場を開放し、挽上さんから送っていただいた布絵本などで遊びました。また、戻ってきた中年の女性達はパワフルで、「何かやれることはない？」と言う方もおられました。母子健康推進員の研修会を公募したところ二〇人も集まってくれました。この方達と一緒にファシリテーション等学び、今年の五月には南相馬市母子愛育会として立ち上がりました。さらに「今だからこそ笑える健康教室を」ということで笑いのヨガなども広げていっています。

震災を乗り越えることは難しいですが、震災・原発不安と向き合い、折り合いをつけながら、一緒に笑い合えるような保健師活動を仲間達としていきたいと思っています。そしてみんなが安心して暮らしていけたらいいと願っています。

《質問》

Q. 震災当初、一番大変だったことは？

A. 直後は何が何だか分からず、原発が爆発したことも知らずに、避難してきた人達が少しでも安心できるようにと現場にいました。その後、在宅で困っている

人達のが分かってきたのですが、人手がありませんでした。総合病院の看護師の方達と協力して：：と計画を立てたら看護師の方達は多くの人が避難した新潟へ行くことになり、東京などから支援が来るからと言われて巡回の計画を立てていたら爆発でだめになり：：と、計画するたびに頓挫してしまふことが続いたのがつらかったです。病気の実父も足の悪い母と在宅で頑張っていました、そのうち食べ物も十分に入ってこなくなり、三月下旬によく宇都宮のホームに入居できました。五月の連休までは何を考えていたのか思い出せないくらい怒濤のような日々でした。連休には最低でも二連休は取れという指示で、ようやく休んだという実感でした。テレビを見ていたらようやく自分を取り戻したのか、涙が出てきました。六月に看護協会の集会で東京に行った時も、人々が普通に生活しているのを見て泣けてきました。

Q. 子どもを持つお母さん達の悩みや子ども達の様子は？

A. 家に戻れるかどうかの基準は放射線量ですが、校庭や公園は除染のおかげで確かに下がってはきていま

す。ただ、戻るかどうかの判断は一人ひとり違います。戻ってきたお母さん達も、「放射能は気になるが、お父さんと離れて暮らしたくないから」「気にしてもしようがないと自分を納得させて」「あきらめて」といろいろな考えの人がいます。また、「将来どんな影響があるか分からないから、後悔したくないので避難する」と避難する方を選ぶ人もいます。三〇km圏内の公立の保育所はまだ閉じています。三〇km圏外の地区の保育所は開いているので八〇人くらいのキャンプ場や公園のところに二〇人くらい入っています。外遊びができない園では子ども達が落ち着かず、保育者の心身の疲れもたまっています。仮設住宅では隣に泣き声やドタバタする音が聞こえないように気を遣い、子連れで散歩をしていると「こんな所にいていんだべか？」と言われることでつらくなってしまふお母さんもあります。お母さんが落ち着かないと子どもも落ち着きません。放射能の害も心配だが、家族がバラバラに暮らすことが子ども達に及ぼす影響を考えて、避難せずに地元で働くお父さんと一緒に暮らすことを選ぶお母さん達もいます。

「東京漢点字羽化の会」第139～141回 例会報告とわたくしごと

木村多恵子



2017年7月の例会（第139回）7月12日（水）

13・30～15・30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

朝日「歴史学」入力グループ分けをした。7月19日の横浜での印刷はIさんとMさんが行ってくださることになった。厳しい暑さの中ですがよろしくお願いたします。

横浜から吉田様がお見えになり『萬葉集釋注』の7巻（萬葉集では、巻13、14になる）の校正について説明にお出でになった。

「羽化」111号に掲載した岡田さんの執筆内容の予告をしてくださった。

10月の活動予定日を確認した。

2017年8月の例会（第140回）8月16日（水）

13・30～15・30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

木村が、7月23日に、川上リツエ会長のご逝去にと

もなつての今後の会の在り方についての、5月20日の理事会での決定事項などを評議員会に報告し、続く理事会のこと、そして「川上リツエ会長を偲ぶ会」がもたれたこと、その報告をした。

朝日の記事の入力グループ分けをした。

9月20日の横浜での印刷は、お二人、三人が手を挙げて下さった。皆様何時もご協力をありがとうございます。

11月の予定を決めた。

岡田さんが基本的な入力方法についてさらに詳しく説明した。

2017年9月の例会（第141回）9月13日（水）

13・30～15・30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

何時ものように朝日の記事入力グループ分けを決めた。9月20日の印刷は、3名の方が横浜へ行ってくださることを再確認した。

皆様よろしくお願いたします。

『萬葉集釋注』の東京での校正は横浜へ届き、お礼の挨拶をいただいたことを報告し、10月の例会に、後半の校正依頼に吉田さんが来られることも報告があった。

12月の日程を決めたが、学習会の日取りは、学習者の方たちのご意見も何うことにし、例会の日のみ決めた。

10月の学習会の日ガイドについても確認した。

入力方法の実際について、岡田さんが懇切丁寧に説明した。

* 予告

2017年10月の例会(第142回)10月11日(水)

1330~1530 ヒューマンプラザ7階第1会議室

2017年10月の学習会(第114回)10月21日(土)

1730~1930 ヒューマンプラザ7階第2会議室

2017年11月の例会(第143回)11月8日(水)

1330~1530 ヒューマンプラザ7階第1会議室

2017年11月の学習会(第115回)11月25日(土)

1730~1930 ヒューマンプラザ7階第2会議室

2017年12月の例会(第144回)12月13日(水)

1330~1530 ヒューマンプラザ7階第1会議室

2017年12月の学習会(第116回)12月16日(土)

1730~1930 ヒューマンプラザ7階第2会議室

わたくしごと

お掃除するのは好きだ。(本当にそうかな?)

大まかに言えばやはり好きと言えるだろう。身体を動かし、あちこち角が剥がれてしまった安物家具とはいえ、長年使ってきたものを拭いたりするのは、気軽に動けるので気持ちいい。

けれども、ガラス磨きは、正直億劫がっている。

床を拭いている時は、音訳された本を聞きながら、手を動かせるので気に入っている。

音楽も、本の朗読も聞かずに「何か」を考えながら床拭きをするのも好きなので、たいてい、日に一度は大ざっぱでも床拭きはしている。

ところが、お掃除というものは何時もの手順通り進んでいるときはいいのだが、時としてとんでもないアクシデントにおそれ、単なるお掃除が大掃除になってしまうことがある。

ある日の朝、いつものように床拭きをしていて、さて、後少しだ。冷蔵庫周りとしに流しかつて立つ辺りの床面を拭けば終わり…。と最後の段階にきたとき、「え?これなあに?どこから?え?…」、驚いた!何と冷蔵庫の周りは水浸しになって「お池にはまってさ

あたひへん」状態だ。しかも原因が分からないからなお厄介。なによりこの水を拭き取るほかどうにもならない。うーん、幸い今日は一日家に居られるから中掃除（ちゆうそうじ）になつてもかまわない。

でもどうしてこんなことになつたのだろうかと考えた。昨夜から今朝にかけて、バケツや鍋をひっくり返した覚えはない。昨日の夜何をしただろう？ そうだ、冷蔵庫の中を掃除した。庫内の棚を抜き、ドアポケットを外して洗って、拭いて、元に納めた。冷凍庫のボックスも外して「…？ うん？ これかなあー！ 製氷皿を抜くのに少し手間取ったことを思い出した。我が家の冷蔵庫はぎりぎり一杯の狭い所に納めてあるので、ドアを全開にすることができない。その必要があるときは、やつこらさ、とばかりに冷蔵庫全体を前に引き摺り出さなければならぬ。

そうだ、きつとその時製氷皿の氷が溶け出していたのだろう。わたしは早く寝たいばかりに、さつさとこの仕事を片付けることにしたのだが、その実、やらざるがなのことをしていたようだ。氷が溶け出しているときに、冷蔵庫をやたらに動かしたのだ。しかも、冷蔵庫の電気コードを、下敷きにしてはならないの

で、コードを辿つてその確認をした。「ああ、だめだめ、挟まっている」と言いながら、また冷蔵庫を動かした。今度は引き摺るだけでなく、冷蔵庫そのものを少しとはいえ持ち上げてコードを自由にしてやらなければいけない。この力仕事は大変なので何時もは注意しているのに、今回はおまけの力が必要だった。この「おまけ」が「どんぐりの池」を作ったのかもしれない。なにはともあれ、ちゃんと納めたはずなのに、今朝はこの騒ぎ。わたしは苦笑いしながら掃除のやり直しをした。まあ、この程度の水害で済んだからよかったものの、冷蔵庫の周辺は鬼門のようだ。

この上には、電話の子機やアクティヴスピーカー、時計、ラジオなど所狭しと置いてあり。ちよつとした加減で電話の子機を冷蔵庫の後ろに落としたりすると、これまた大騒ぎ。上に置いてあるものを全部移動させ、冷蔵庫を動かして、その後ろや壁際を探す。ハタキの棒を細いとこに差し込んで取れるときは何とも有り難い。だがたいいそんな横着は許されない。そんな時のおまけのいいところは、冷蔵庫の、周辺掃除ができることだ。

幸い我が家のフローリングは滑りやすくなっている

ので、わたしは確実に固定したところに足を付けて踏ん張って全身の力を使って引き摺り出し、納めるときは身体全体で押し込んでいます。

まあ、これもいつまでできるかわからないけれど、一人でできるのはありがたい。こんなことのために人様をお呼びするのは申しわけないもの。

お掃除とはなんといういろいろなことを考えさせるのだろう。

グリムもアンデルセンもオトフリート・プロイスラーも主人公に、短時間で、厄介な掃除を一人でやれと命令する。主人公たちははげなげに、必死で始める。やっとなりの部屋の片隅に掃き寄せた小麦粉は、彼、彼女がホツとすると、とたんに、その小麦粉は元のように部屋全体に散らばる。再度やり直しても3回、4回やっても、何時も元の黙阿弥で、一向に綺麗にならない。疲れ果て困り抜いている主人公の元に、誰にも気付かれないように助け手が現れる。物語はこうして始まる。

わたしは子供の頃どうして同じパターンではじまる物語が多いのか不思議でならなかった。その頃考えたのは、「真面目に根気よくやれば助け手が現われるの

かな」ということしか分からなかった。今になっても同じで、現実には毎日の積み重ねが大切なのだ。

実際このお掃除一つをとっても、この家ではいくらか拭いても拭き終わった直ぐその後で、切手や小物を落としてしまつて、床を触りながら探すと、悲しいことにこの手に埃が付いてきて、わたしは直前の掃除を疑いたくなる。これは使われている建材の質によるもので仕方がないと今では諦めているが、最初は何回もまた拭き直していた。

そして改めてグリムやアンデルセンを思い出して妙に納得してしまつた。

お掃除は何時でも何処でも必要なのだ。たとえば日常生活の中で、CD1枚聞くだけでも、CDの掃除からはじまり、掃除で終わる。

掃除はマイクロからマクロまであらゆる全てのところで必要なのだ。

学校、病院、鉄道などあらゆる公共機関、精密を極める実験室、工場、「フクシマ」「チエルノブイリ」、街、村、山、海、川、砂漠、海底、地底、空、宇宙……。何処をとつても物事が正常に働くには本当の掃除が必要であろう。(2017年10月6日 金曜)

漢文のペーシ

『論語』(為政)より二題

人 焉いづくんぞかく廋くさんや

子曰、「視ミ其ノ所ヲ以テスル

觀ミ其ノ所ヲ由ル、察ス其ノ所ヲ

安ズル、人 焉ンゾ廋サン哉、人

焉ンゾ廋サン哉」。

学んで思わざれば

子曰、「学ンデ而レ不レ思ハ、

則チ罔シ。思ヒテ而レ不レ学バ、則チ

殆ウシ」。

参照図書―渡辺精一『中国古典の名文』(祥伝社新書)

子曰く、「その以てする所を視、

その由(よる)所を觀、その安んずる所を察(み)れば、人 焉(いづく)んぞ廋(かく)さんや。人 焉んぞ廋さんや」。

所以||手段、方法。

所由||根拠、基づくものこと。

所安||安心しておちつけるところ。

廋||古来の注釈で「廋は匿なり」とある。隠(かく)すの意。

焉: 哉(いづくんぞ: や。)

どうして: できようか。できはしない。

※哉は、詠嘆の終助詞として「かな」と訓まれるが、反語「焉: 哉」では「や」と訓む。

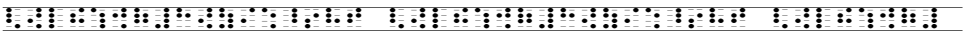
子曰く、「学んで思わざれば、則ち

罔(くら)し。思いて学ばざれば、則ち

殆(あや)うし」。

学||師や書物から学ぶ。

思||自分で考えて発展させる。



人焉 ンゾ サン 哉

子曰 ク、「視 其 ノ 所 ヲ 以

テスル、 観 其 ノ 所 ヲ 由 ル、

察 レ バ 其 ノ 所 ヲ 安 ンズル、

人焉 ンゾ サン 哉、 人焉 ンゾ

サン 哉」。

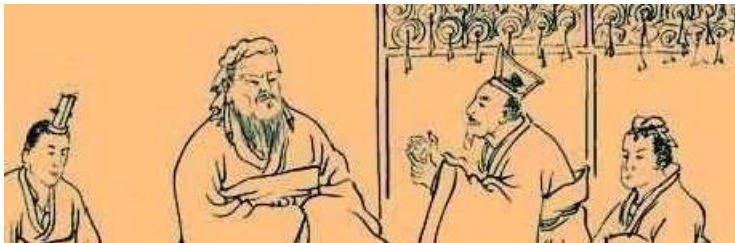
～ 廣、ま だれ > 叟 しゅう そう かくす

学 ン デ 而 不 レ バ 思 ハ

子曰 ク、「学 ン デ 而 不 レ バ 思

ハ、 則 チ 罔 シ。 思 ヒ テ 而 不 レ バ

学 バ、 則 チ 殆 ウ シ」。



「J」報告と「J」案内

一 日本漢点字協会



去る四月五日に、日本漢点字協会会長の、故・川上泰一先生の奥様であるリツエ様がご逝去されました。その後協会の理事会が開催されて、今後の活動のおよその方向性が示されました。本誌前号に、理事である木村多恵子さんからの報告として、掲載させていただきました。

理事会の後、評議員会が開かれて、同様の報告がなされて、会員にはカナ点字の文書が配布されました。その内容は残念ながら、協会の活動方針が示されたと言っても、急な会長の不在という状況を、取りあえず活動の休止という処置で乗り越えられないかというものに終始したものでした。

現状としてもその後何の報告も方針も示されていないのが実情で、活動の休止の中には、会費の徴収も含まれておりますので、協会と会員との関係も、微妙なものになって参るはずで。

ただ一つ、川上先生の遺産とも言うべき漢点字の資

料の原版を、5月の理事会に向かつては、産業廃棄物としての処分も検討課題となる旨言われておりましたが、その折りには言われておりませんでしたことが、この度漢点字使用者向けのメーリングリストを通じて、明らかにされました。

それによりますと、川上先生が遺された漢点字の資料を電子化して、その作業が終わったものから処分しようということです。既に多くの資料が電子化されており、処分の対象もかなりの量に達していると言われます。

これは大変よいことだと思しますので、今後も注視して参りたいと思います。

二 FM戸塚で収録

元横浜市議会議員の大滝正雄先生が、コミュニティ放送局のFM戸塚（横浜市戸塚区）に番組をお持ちで、この度岡田を出演させて下さいました。10月9日（月）に収録して参りました。

番組名…「シビックプライド・ダイアログ」

内容…大滝先生との対話。川上泰一先生、漢点

字、そして羽化の会と岡田。

放送… 10月23日(月)

9:00～10:00、14:00～15:00、

20:00～21:00の3回です。

放送はFMラジオで受信できるほか、スマートフォンおよびパソコンからFM戸塚のホームページにアクセスしていただくことでお聴きいただけます。

本会のホームページにもリンクがありますので、こちらからもFM戸塚のホームページにお入りいただけます。

放送日の明くる日10月24以降、FM戸塚のホームページにアクセスしていただければ、アーカイヴとしてお聴きいただくことができます。
是非お試し下さい。



編集後記

▼10月15日は当会の定例会でした。岡田さんがFM戸塚の番組に出演されることになり、その収録が行われたということで、ひとしきり話に花が咲きました▼ごく狭い範囲の地域にラジオ電波を届けるこの種のコミュニティ放送局は今あちこちにありますが、この放送を直接ラジオで受信できるのはほんの限られた地域です。今ではこういう各地域のコミュニティ放送が、インターネットにのせられて、世界中に発信されているのです▼パソコンでFM戸塚のホームページにアクセスして「パソコンでラジオを聴く」というボタンを押せば、必要なアプリがダウンロードされて、パソコンで、放送中の音声を直接聴くことができますし、スマホやタブレット端末用にはそれぞれのアプリが用意されています▼何と便利な世の中になったものかと、感無量のところですが、ちよつとつかかりしているとその便利さの存在にすら気がつかないで、世の中の流れに取り残されてしまふのではないかという一抹の不安を覚えてしまいます。

(木下 和久)

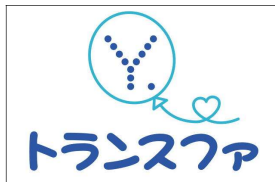
(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。

研修者募集：弊社では、ガイドヘルパー（視覚障害者）の資格取得研修を実施致します。詳細はホームページで。



URL: www.ytrans.net

〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話: 045-263-0306

FAX: 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は1月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。